

鹿児島の昆虫 75

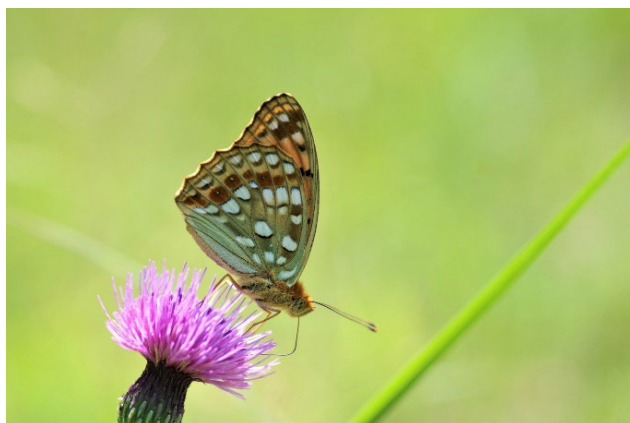
霧島山の昆虫

昆虫担当 中峯 敦子

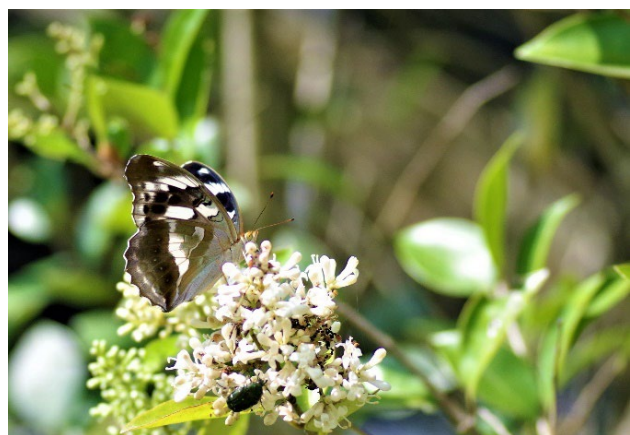
4月25日(土)から霧島山の知られざる魅力を紹介する企画展「そうだったのか！霧島山」が始まりました。そこで今回は、山のチョウについて紹介します。

草原のチョウ～ヒョウモンチョウ類～

霧島山と聞くと、森林やごつごつとした火山活動による岩が露出した山容を思う方もいらっしゃると思いますが、そのすそ野には、あちこちに牧草地や、草原が広がっています。かつては草や茅を必要とする人がいて、定期的な草刈りにより、草原が維持されてきました。このような草原とその周辺には、オオウラギンヒョウモンやサトウラギンヒョウモンなどのヒョウモンチョウ類が生息していました。しかし、近年、人が利用する草原の減少に伴い、その種数、個体数ともに減少しています。



サトウラギンヒョウモン



メスグロヒョウモン

花と昆虫～シカの食害と植生～

民謡「おはら節」にも「花は霧島…」の歌い出しがあるように、四季折々に霧島山の花



ハンカイソウの群落

を楽しむことができますが、花に集うのは人間ばかりではありません。霧島の花をもとめて、様々な昆虫も集います。

6月、牧園町の森の中でハンカイソウのお花畑を見つけました。これまで何回も同地を訪ねていましたが、ここまでの大群落になっているとは気づきませんでした。見ていると、高い木の梢や暗い林間から、たくさんのアゲハチョウ類、ヒョウモンチョウ類がひっきりなしにやってきては花の蜜を吸っていました。

さて、ハンカイソウは、本来牧草地など開けた場所に現れる植物です。なぜ森の中に群落ができていのでしょうか。日照などの条件もさることながら、おそらく、近年各地で増加しているシカが関係しているようです。霧島山でも林床のあちこちが、シカの食害に遭っています。そのような中、ハンカイソウは、シカが嫌い、食べ残されるのだそうです。その結果、他の植物が食いつくされた地で、ハンカイソウが群落をつくったと考えられます。シカの好き嫌いで、吸蜜昆虫にとってはうれしい吸蜜ポイントが出現したわけですが、植生の多様性が失われることが懸念されます。